

# 図書館だより

Library News No.53  
Nara National College of Technology

2001年11月 奈良工業高等専門学校図書館発行



## 目 次

巻頭言 「図書館と私」..... 2	学生図書委員が薦める ..... 8
着任一年を振り返って ..... 3	図書館委員会が薦める ..... 9
上田太平文庫創設 ..... 4	読書週間行事について .....11
あなたの「読書の秋」のプラス・1 ..... 5	表紙のカット 51 響 華代子さん
高専ベテラン教師が薦める ..... 5	

昔の話で恐縮であるが子供の頃、私には図書館という概念はあまりなかった。小学校時代は何も無い頃であったから当然、本も無く教室文庫もなかったように思う。たまたま病気をしたときなど親が買ってくれた少年雑誌は貴重な本であった。中学時代の頃の記憶はあやしいが、図書室らしいものはあった。そこで確かに少年向けの雑誌を読んだ記憶がある。高校には小さな図書室があり、担当の先生がおられたと思うが、図書はそれほど充実していたという記憶はない。実際、余り利用しなかったように思う。蔵書数が少なく自分の興味のある理系の読み物は少なかった。当時から自分は理系だと思っていて、文芸にはさほど興味がなかったことも図書室に足を向けなかった原因だと思う。理系の人間は文芸に興味がないということではない。現に本校では理系で文芸に造詣の深い先生がたくさんおられる。私の場合、読みたいものは自分で買って読んだ。自分で買うのだから読んだ本はそんなに多くはない。年を取るに従って文学作品はそれほど多くはないが、歴史、地理、政治経済についての書物は良く読むようになってきた。本校の図書館を利用するのは当然であるが、最近、各自治体で作った立派な図書館が増えてきて、これもときどき利用させて貰っている。これらは市民向けであるので文系の本が充実している。

若い頃は読んだ本は少ない方であるが、気に入った本は繰り返し読んだ。子供の頃は天文に興味があり、これに関する本は冊数は多くはなかったが何度も開いた。読む本が少ないものだから天文に関する本なら何でも良いと言った調子で、たまたま家にあった古い本、中村要著「反射望遠鏡」は何度も読んだ。これは子供向きの本ではないので、恐らく中学から高校にかけての頃と思う。放物面鏡の磨き方から鍍銀の仕方まで、結局一度も鏡を磨いたことはなかったけれども、作り方は丸暗記してしまい、あたかも自分が磨いたような気になった。実際に鏡を磨こうとすると長い時間の忍耐と試行錯誤が必要になるのだそうである。

本は過去の知識・経験の宝庫である。科学、技術、歴史の知識、また様々な人々がその時代をどう生き抜いたかなどが本には詰まっている。文学作品は自分では経験できない人生を教えてくれる。これを理解するにはある程度の人生経験がいる場合が多い。我々は常に人々との交わりの中でしか生きていくこと出来ないのであるから、作品を理解するためだけでなく、人生を豊かにするために回りの人々とのつながりを大事にしたいものである。

今はインターネットのように本以外に速報性に優れた情報源もあるが、体系的で記録としてしっかりしたものとしてはまだ本をおいて他にはないであろう。私はたまたま天文であったが、誰であっても必ず波長の合う本に巡り会えるはずである。今は本は溢れるほど発行されている。少ないときよりも選択が難しいかも知れないが、良い巡り会いを期待している。幸い本校には充実した図書館がある。はじめは小さな図書室から出発したが、今は広く市民に解放された本格的な図書館に発展してきている。これをうまく使いたい。それでも希望する分野の本が少ないかも知れない。そのときは積極的に図書館に要望してほしい。利用者と運営者が協力して良い図書館を作っていきたいものである。

# 着任1年を振り返って

一般教科 森 弘暢

早いもので、奈良高専に着任して1年が過ぎました。今回「着任1年をふりかえって」というテーマで、原稿を依頼して頂き、まずは今年の「新任教官紹介」で、私が何を書いていたか読み直してみました。覚えてくれている人がいれば嬉しいですが、「目で会話をしましょう」ということを書きました。今の世の中、コミュニケーションの手段が、携帯電話をはじめ、Eメール等ますます多様化しています。

しかし、時代とともに変わり行くもの、そして変えてはならないものがあると思います。新たな時代を生きるみなさんには（私も含めて）、物事の本質を見極める力が必要であると思います。

さて、奈良高専で初めて過ごした1年間でしたが、さまざまなことがありました。春、秋のスポーツ大会、高専体育大会、高専祭、5年生の就職・進学試験、卒業・終了式、そして新たに1年生を迎える入学式。その中でも今年の高専体育大会が終わったときに、クラブを引退する5年生に送った話を少し書かせて頂きます。これは、日本を代表するラグーマン、林敏之さんが自伝の中で書いていた一説です。『人間は感動したときだけ、自分が自分に戻れる。感動したときこそ、生きることが鮮やか、生が鮮やかになる』感動という言葉は、もともと中国の論語の教えで感と動の間に「即」という字が入っていた。感即動。感じるから即ち動く。人を動かすのもそうである。人間は理屈では動かない。感じないと動かないのだ。頭で考えても人と人とはつながらない。では、どこで人と出会えるのか。それは、感じあうことによるのみである。感性の部分でしか人は出逢えないのである。』 「感即動」この言葉は、私自身のテーマでもあります。感じる心を養い、人に何かを感じさせられるものを身につける。そして、みなさんと接していきたいと思います。

電子制御工学科 山本 和男

こんにちは！まだまだ新米教官の山本です。私自身今年1年、何を目標に教官を務めたかという、学生はもちろん周囲の人を裏切ることなく頼りがいのある人間になることです。どうでしょうか？まだ私の顔さえ知らない学生も多いとは思いますが、学生の皆さん、私はそんな教官に少しでもなることが出来たでしょうか？

この1年間、特に寮務委員やクラブ顧問で出会う学生から、本当に何よりも大切にするのはと聞くと「友達との関係」という人は多いなあと感じました。その考えには大賛成です。

私は皆さんと違い公立中学校を卒業した後、高校、大学、大学院、奈良高専教官と進んできました。ずっと地元から通学していたということもありますが、今でも気ままな時間に会って、話をする中学、高校、大学、大学院時代の友人が少なからずいます。もちろん他にも色々大事なことはありますが、一番と聞かれればやはり友達です。それも一生涯の。

近頃、うわべだけの付き合いばかりで、「大切に思う友達の為だったら、自分にできることするよ」という人は本当に少なくなっていると思います。今の大人にもそういう人は少なくありません。自分の利益や、自分の心の中に存在する、怠けようとする気持ち。どうかそういう気持ちに負けずに「友達との関係」を大切にしていくと、いずれ高専を卒業した後も、一生涯の友人が君のそばに残っているでしょう。今の皆さんの時期は今後の人間関係に一番大きく影響する時だと私は思います。大人になってからの友人では、どうしても昔からの友人とは違い、「なぜかそこまで親しくなれない」といったことを感じることもあるでしょう。

どうか今を、そういった意味で大切にしてください。私もこれから一生涯の友達ではないけれど、一生涯の「学生」と言える、また一生涯「先生」と言ってもらえるような学生がたくさんできるように1年目に続き今後がんばります。

## 「新米教師の独り言」

物質化学工学科 伊月亜有子

私の中にある古都・奈良のイメージ通り、この奈良には奈良公園、平城宮跡等歴史に裏付けられた緑豊かな土地柄で、満開の桜が私を出迎えてくれてから早いものでもう一年。この一年、自然の移り変わりに季節を感じ、近代都市にはない、ゆったりとした時の流れと、この地に暮らす人々の優しさに囲まれた穏やかな日常を過ごさせていただいたことに感謝しています。

教えられる側から教える側へと180度逆転の教師生活スタート。コチンコチンに緊張した初めての授業に、自分がわかることと相手にわからせることは違うこと、教えることの難しさを実感しました。新米教師ですが、逆に一番学生の気持ちを理解できる若さを強みに、今後も教育・研究に当たりたいと考えています。高専祭、春季ハイキン

グ・秋の工場見学、部活の引率、卒業研究と発表等たくさんの思い出の中でも一番心に残っているのは、授業内容の改善を目指した自己点検評価の実施に伴う、学生による授業評価アンケートのことです。散々な結果に、予想していたこととはいえ、かなりショックで、その反面、去年までの学生の座席から講義を聴いていたことを思い出し、ただ単に一方的な講義をするだけでなく、わかりやすい授業、学生が理解しやすいように工夫した授業の実施を目指してがんばったものです。

最後に学生のみなさんに一言、昨今の経済環境の厳しい中で、大学生や高校生に比べ、高専卒業生の高い就職率。また受験勉強を強いられる高校生に比べ、負担の軽い、大学への編入学。高専のこのような恵まれた環境を見逃す手はありません。就職や進学に大いに利用し、人生の次のステップへと飛躍する道を選択してください。

## 上田太平文庫創設のお知らせ

図書館一階に「上田太平文庫」が創設されます。上田太平氏は平成3年本校電気工学科を卒業後、関西電力(株)に勤務されていましたが、病を得て平成12年7月に若くしてお亡くなりになりました。この文庫は本校を深く愛されたご本人の遺志を受け継がれたご両親から寄贈された基金によるものです。ここに収集される図書は創設の趣旨に基づき、豊かな教養、科学技術に関する資質と深い洞察力を育てるものという指針で選ばれます。現在、明治から大正・昭和をはじめとして現在話題の人物の、それぞれの時代の流れの中に咲いた人生の記録「シリーズ・人間の記録」全160巻(日本図書センター)と、「世界美術全集 東洋編」全17巻(小学館)の購入が決定しています。図書館委員会で決定次第、順次充実させていく計画です。ご期待下さい。

### 【上田太平文庫】創設の趣旨

五千年もの昔に端を発した人類の文明の歴史を振り返ると、いつの時代にも想像を超える人間の叡知を観ることができます。今日においても、コンピュータに代表される科学技術の飛躍的な発展によって、私たちの生活環境も大きく変わろうとしています。21世紀の担い手の皆さん方には大いなる夢があることでしょう。

しかし、現実の社会は戦争の危機と恐怖、人間と自然の関係や環境問題など平和や人間の尊厳に背くような矛盾を孕み、私たちは解決すべき課題を多く抱えています。そしてこのような時代であるからこそ、現実立ち向かっていくために深い知性と教養、豊かな感性と創造力を養うことが一層重要になります。皆さんがこれから生きることの本当の意味を問い、豊かな未来を拓いていくことを願ってここに「上田太平文庫」を創設します。

高専ベテラン教師が薦める ...

## 技術者と環境問題

一般教科 守屋 雅博

最近のいろいろなメディアを見ていても、環境問題に触れない日はない。21世紀は人間がいかに関心を大切にしていくかによって決まってくると思われる。

私が皆さん方の年齢の頃、家の周りを少し散歩すれば、季節に応じてメダカや赤とんぼにいくらでもお目にかかったものであった。しかし、近頃ではめずらしい。

私は今回の読書感想文コンクールの参考図書にもなっている「失われた森」(レイテール・カーソン、古草秀子訳)を是非皆さん方に読んで欲しいと思います。平成12年度の5年生にはRachel Carson "Silent Spring"を原文で読みました。

また、現5年生の皆さんとは3・4年生の2年間に、Greg Goodmacher "Nature and the Environment"を教材にして環境問題に取り組みました。Rachel Carsom はアメリカの海洋生物学者であり、作家です。「失われた森」の中に含まれている「沈黙の春」は、「明日のための寓話」の中の冒頭の章です。農薬などの化学物質による環境汚染の危険性を最初に鋭く警告した書として、20世紀における人類にとって最も重要な著作と言われている。人類が、特に技術者が創造してきた様々な機械や物質が人々の利益と便宜さのために使用され続けている間に、地球がどんどん汚染されていたのである。7月23日地球温暖化防止ボン会議は京都議定書運用ルールについて合意に達したものの、ブッシュ大統領は急がない。何故なのか、私には理解できない。地球自体が今まさに苦痛の悲鳴を上げているのである。オゾン層の穴が年々拡大し、異常気象が世界の多くの地域で起こっている。世界の屋根ヒマラヤ山脈の氷河が

急速に縮小しだしていることも指摘されている。

21世紀がどうなっていくのか不安である。21世紀は皆さん方の世紀である。これからの技術者は常に地球環境を意識すべきだと思います。

一方、日頃の皆さん方の教室を見てください。ビン、カン、ペットボトルの分別は実行できていますか。教室は学習するのに適した環境になっていますか。

政治家、科学者、技術者が共に話し合って努力する以外に地球の未来はないのではないのでしょうか。そのためにも、近い将来、技術者として活躍される高専生諸君にはこの本を一度読んで欲しいと思います。

## 高専生のみなさん、おはよう

機械工学科 加納 文質

高専生のみなさん、おはよう。たまには、ちょっと日頃の勉強から離れてみませんか。難しい勉強は必須であります、なかなか思うように前に進まないと思います。このようなときに、良く効く本があります。人間の頭脳は不思議なもので、畑違いの本を読んでいると、ふっと日頃の自分が悩んでいる難しい問題の答がひらめくことがあります。ちょっとしたブレイクスルーです。気楽に読める本として、「今、動物学がおもしろい - 宇宙と地球生物 - 」(日本学術協力財団)という本では、宇宙へ錦鯉、スズメバチ、蛙、めだかなどを連れて行き観察した結果、地球上では想像できないことが見られたということです。発想の転換、ということにつながるのでしょうか。

「生活を変えた技術」(日本機械学会)では、日常私たちが使っている洗濯機、カメラ、電卓、電話、自動販売機、自動車など、時代とともにどのように変遷してきたか、よき人間社会生活のためのニーズを追って興味を持って考えたために、技術が進歩してきたことがよく分かります。「工

ンジンはジェットだ！」(オーム社)では、夢をのせて飛ぶ飛行機のエンジンは、いろいろな分野の技術の粋を集めてできていることがよく分かり、エンジンの構造も分かりやすく述べられています。以上の本は大変やさしく書かれていて、ものごとを観察し考えるための入門としておもしろいと思います。

技術の勉強は大変おもしろいことですが、みなさんの将来に重要なことは社会生活です。「人は人によりて人となる」(プレジデント社)によれば、苦労して会社を興した起業家が重点においたことは、自分自身も含めて人をよく理解することです。技術以上にすばらしいのは、やはり人でありましょう。つぎに、少し難しくなるが、「開発者列伝」(日経BP社)および「研究力」(東京図書)は、こうして商品開発はできた、あるいは研究して世に認められる努力をこのようにして行った、などの経験談が複数の人たちにより書かれています。みなさんの将来に、勇気付けられるのではないのでしょうか。また、かたくるしい本ではありますが、「論語」(明治書院など)は、日頃忙しい私たちの基本的な考え方の原点のような気がして、ときどき中を覗くことがあります。みなさんにご紹介できる本はごくわずかでしたが、気軽に選択して読んでみてください。

最後に、時として、本の内容よりもその題名に共感して、勝手に内容を頭の中で作り上げてしまうことがあります。E.Hemingwayの”THE SUN ALSO RISES”は、私は大変好きです。

## 新入生に薦める本

電気工学科 成田 紘一

盆には毎年帰省(島根県松江市)しています。そして、幼稚園から高校まで同級だった男女の友人とワイワイやっています。そこでいつも「成田は読書狂だったな」と言われてきました。自分では意識していませんでしたが、友人達は今でもそのように思っているようです。

さて、ここでは、私が夏休期間中に読んだ新刊本で皆様に役立つような本を紹介しようと思います。8月15日は太平洋戦争(私の父は戦死してい

ます)の終戦記念日。そのため、7、8月の新刊本は太平洋戦争に関する本が多いようです。

まず1冊目は「死闘の本土上空(B29対日本空軍)」(初版:2001年7月10日、出版社:文芸春秋、著者:渡辺洋二)です。若い人はB29についてよく知らないと思いますが、戦時中に米国が開発したプロペラ4発の戦略爆撃機です。もともと東京にあった私の家もこの飛行機によって焼夷弾爆撃をうけ跡形もなく焼けてしまいました。そのため、母と共に祖父の実家の松江市に引っ越したわけです。ですから、この飛行機は私にとっては憎き飛行機です。B29は高高度爆撃機で、日本の戦闘機はこの高度まで到達できませんでした。この本には、そのために考え出された技術的対策が述べられています。「これが日本人の技術の本質だ」が語られています。日本帝国時代の軍隊は陸軍と海軍しか有りませんでしたので、この本の副題となっている日本空軍とは、海軍と陸軍の飛行隊をさしています。なによりも、文庫本にしては当時の写真が豊富に使われているのがうれしいです。実のところ、当時のレーダの写真が載っていたのでつい買ってしまった本です。技術とか研究とかを考えさせる本でもあります。当時の技術力不足が特攻隊を生み出し、そして、技術を担うはずの若い大学生や高専生が多数死んだのですから。

もう1冊は「20世紀 大日本帝国」(初版:2001年8月15日、出版社:中央公論新社、著者:読売新聞20世紀取材班)です。今は新世紀に入りましたが、前世紀(といっても昨年までですが)について、たかだか100年間のことですが、皆さんはあまり知らないと思います。この本は、前世紀(太平洋戦争まで)に起こった日本のトピックを取り上げ、それを読売新聞の記者が手分けして取材して記事にしたものです。現代社会で是非知っておいてほしい事について書かれていますので皆様に推薦します。



## グローバル化の時代変革の中で

電子制御工学科 阪部 俊也

21世紀に入り世の中はますますグローバル化(global)化が加速し進んでいる。情報革命、インターネットの普及などもあり、全世界規模で物事が決められたり、判断されたりする社会になっている。多くの人種、多くの国は、それぞれ独自に良い社会を作ろうと努力し造ってきた。

しかしながら、21世紀はいろいろな事柄が国際基準のもと、つまり同じ土俵の上で競うあるいは評価しなければならなくなっている。金融のグローバル化がよく報道されているが、教育についても同様である。高専は設立当初から大学の学部卒に負けない教育を目標として教師、学生とも頑張ってきた。そして立派な成果を上げてきたと思われる。

しかし今、大学卒の資格である学士が国際的に見てどうなのか、あるいは、技術者の資格、教育内容はどうなのかを国際基準で評価しなければならない。この時、何を教育したか、学生にとっては、何を学んだかではなく「それで、何が出来るか」が問われることになる。テストの成績等で優の評価を受けているだけではダメで、だから、この事が出来ると云う事が重要になる。医者は何処の国に行っても医者で通用するが、技術者も同様になっていく技術者認定制度がすすめられている。このように日本国内だけで済んでいた多くの事柄が国際的な判断基準に沿っていかなければならない時代が確実に進んでいる。

ここで、私が薦める一冊は司馬遼太郎著「竜馬が行く」です。日本国と云う考え方がなく、藩の単位で物事を考えていた時代に日本国を意識し、活躍した坂本竜馬の生き方が生き生きと伝わってくる本です。ぜひ、一読をお薦めします。

## ある本との出会い

情報工学科 工藤 英男

過去を振り返って、君らの年頃にどんな本を読んだか思い出してみると、なかなか思い出せない。小中学校の時は「子供の科学」、「初歩のラジオ」、「模型とラジオ」、「天文ガイド」などの月刊誌だったと思う。これらの本の発売日を楽しみに待ち

かねていた。当然当時もマンガ本「少年マガジン」、「少年ジャンプ」?などもあった。

さて、新入生に薦める本のテーマには合わないが、小生の本にまつわることを紹介しよう。

- 名著との出会い -

吹田に国立民族学博物館を創られた梅棹忠夫先生の「知的生産の技術」(岩波新書)は、学校では教えてくれない知識の獲得の仕方について書かれた素晴らしい本である。梅棹先生は発見のツールとして京大型カードをあみだされた。

- 多読のキッカケの本 -

井上富雄著の「ライフワークのを見つけ方」(21世紀ブックス)により、多読法を知った。1月に150冊の本を読んだ経験談が紹介されている。人生の生き方を10年単位に見直し、人生を3倍楽しむ?ことも書かれている。

- 専門雑誌の廃刊に想う -

この4月に、約30年余りの歴史をもつコンピュータ科学の月刊誌である「bit」が廃刊になることが、全国誌の新聞に載った。通常このような話題が一般の新聞に掲載されることは珍しい。世の中は、IT(情報技術)ブームでコンピュータ関連の話題がない日はないぐらいなのに、誠に残念なことである。

わが国における情報系の専門家の多くは、この「bit」で育てられたと言っても過言ではないだろう。小生は大学のコンピュータ・クラブでこの「bit」を知った。また初めての原稿料が、この雑誌であったのも、何かの縁だと思う。

最後に、一行でも参考になる部分があれば、その本を購入すべきと恩師から聞いたことがある。経済的および空間的に許されるなら、やはり原著作を手元に置いて熟読できることが望ましい。しかし、それはなかなか困難である。そこで頼りになるのが各種の図書館であろう。幸運にも君たちの身近なところに、奈良高専の図書館という立派な施設があるので、活用しては如何でしょう。

さらに、いよいよ来年には、関西文化学術研究都市に国立国会図書館関西館(仮称)が開館の予定である。この関西館の開館が待ち遠しい今日この頃である。



## 新入生に薦める本

物質化学工学科 三木功次郎

立花隆著、「21世紀 知の挑戦」、文藝春秋

立花隆は、約20年前に「田中角栄研究」でジャーナリストとして一躍有名になり、その後「日本共産党の研究」、「宇宙からの帰還」、「脳死」、「サル学の現在」、「ロッキード裁判とその時代」、「環境ホルモン入門」、「インターネット探検」など、さまざまな分野において多数の著作がある。最近では、東大先端科学技術研究センターの客員教授（立花隆は仏文科と哲学科を両方卒業している）になったり、筑紫哲也と一緒にテレビによく出演したりと、とにかく色々な事ができる人である。自分が興味を持ったことを、深く掘り下げて探求し、それを専門外の人に伝えるということに関して、立花隆はすばらしい才能を持っている。

1987年にノーベル賞を受賞した利根川進とのインタビューを元にした「精神と物質」という著作があるが、その中で当時最先端であった遺伝子工学や分子生物学の知識を、素人にわかるように解説してあったのには驚かされた。先端のテクノロジーを一般の人にやさしく説明することは、科学者・技術者の義務であるはずだが、これが行われていない場合が多い。また行われていても難解な説明で、理解できなかつたりすることがほとんどである。新聞の解説などを読むと、間違っていることも非常に多い。このようなことから、最先端のテクノロジーは一般の人に誤解されていることが多いものである。立花隆もわかりやすさのために、正確さを犠牲にしているところが見られるが、それでも彼が伝えようとしている情報量はそれらのマイナスを補うに余りあり、素人が非常に理解しやすい内容となっている。

ここで薦める本では、20世紀が「知の爆発」の時代であって、サイエンス・テクノロジーそして産業活動の飛躍的増大が特徴であったとし、そこから21世紀への展望「知の挑戦」が書かれている。特にバイオテクノロジーには多くのページが割かれており、21世紀はバイオの世紀だとも書かれている。実際、食糧や医療などの身近なところにバイオテクノロジーがやって来ているのであ

る。その意味では、物質化学工学科以外の学生諸君も、ぜひこの本を読んで最低限の知識を身に付ける必要があるだろう。また、この本以外にも立花隆の本を読んでみることをお勧めする。

なお、立花隆は脳死移植問題でいろいろと批判されていたり、佐藤進が「立花隆の無知蒙昧を衝く」という本を書いているという部分もあることを最後に記しておく。

学生図書委員が薦める...

## 「だれも教えなかった論文・レポートの書き方」

坂田せい子、ロイ・ラク著 総合法令出版  
機械工学科4年 山野井祐太

奈良高専の学生をやっていますと様々なレポート課題があります。皆さんも一度くらいはレポートで悩んだ経験があるのではないのでしょうか？（私はかなりありますが）

今回紹介する本は、ブックハンティングにて購入してもらった本の一つです。この本ではレポートを書く準備から最終的なまとめの段階に至るまでの様々なアドバイスが書かれています。また参考文献の探し方やデータのよい活かし方などよいレポートを書くために必要な事がわかりやすく書かれています。

レポートで悩んでいる人にも、今以上によりレポートを作りたいと考えている人にもお勧めの一冊です。

## 「言えそうで言えない数の英語」

金融/生活/ビジネス/スポーツ/情報

ポール・スノードン、

谷ひろ子（せや・ひろこ）著 日興企画

機械工学科4年 加木真太郎

私たちの身の回りには、英語の数字表現が数多く存在しています。外国からきたスポーツの野球やバスケットボールにはもちろん、コンビニの名前など身近なものにも数の英語が多く使われています。

しかし、英会話などで、英語の数字を正確に流



ちょうど扱うことができる日本人はあまり多くありません。

この本では英語の文章があり、そこにでてくる数字を英語で読む習慣が付くように工夫されています。何度も繰り返し読んだ後には、必ず英語の数字が自然に読めるようになるでしょう。

## 図書館委員会が薦める...

最近のビデオラック・新着書棚から

### 「プロジェクトX 挑戦者たち」

全10巻

戦後の日本の高度成長は、必ずしも順調だったわけではない。それを陰で支えたのは、専門家や大手メーカーすら尻込みする、「不可能」の文字がちらつくプロジェクトを執念で成し遂げた挑戦者（エンジニア）たちであった

このビデオは、平成12年3月よりNHKで放送されている「プロジェクトX」47話のうち、10話を厳選してビデオ化したものである。気象レーダ、VHSビデオデッキ、新幹線システムなど、現在その恩恵に預かっているものを作り上げたのは、その分野のプロ集団ではなく、ごく普通のエンジニアたちであった。「窓際族」と呼ばれた人たちもいた。困難を極めるプロジェクトゆえ、メンバーは当然多くの挫折を味わうが、苦しみながらも逆転の発想でそれを乗り越えていく姿が劇的に描かれている。

どの話をとっても、バブルが崩壊し、不況の波が押し寄せ、人々がへこみがちな現在にこそ必要な「挑戦」が語られている精神面でのサクセスストーリーである一方、いかにして不可能を可能にする新発想が得られたかという、技術的な開発秘話としての面白さもあり、1本で2度おいしいビデオになっている。

これから本校を巣立って「ものづくり」に携わる諸君に、このビデオから、授業では教える機会の少ない、エンジニアとしての「気骨」を学んで欲しいと思う。

## 内 容

- 第1巻 巨大台風から日本を守れ  
～ 富士山頂・男たちは命をかけた～
- 第2巻 窓際族が世界規格を作った  
～ VHS・執念の逆転劇～
- 第3巻 友の死を超えて  
～ 青函トンネル・24年の大工事～
- 第4巻 ガンを探し出せ  
～ 完全国産・胃カメラ開発～
- 第5巻 世界を驚かせた一台の車  
～ 名社長と闘った技術者たち～
- 第6巻 執念が生んだ新幹線  
～ 老友90歳・飛行機が姿を変えた～
- 第7巻 海底ロマン!深海6,500Mへの挑戦  
～ 潜水艦・世界記録までの25年～
- 第8巻 厳冬 黒四ダムに挑む  
～ 断崖絶壁の輸送作戦～
- 第9巻 翼はよみがえった1  
～ YS-11・日本初の国産旅客機～
- 第10巻 翼はよみがえった2  
～ YS-11・運命の初飛行～

## 「自分の木」の下で

大江健三郎著 大江ゆかり(画)朝日新聞社  
なぜ子どもは学校に行かなければならないのか? 等の問に優しく、深く、若い頃の思い出や、障害をもって生まれた長男光さんたちと営む家庭を語りながら、素朴な疑問に答えてくれます。この本は、混沌とした現代を生きていかなければならない子どもたち、そして私たち大人に送られたメッセージです。特に「暴力」と「人間のいのち」については、日本が戦争にも発展しかねない同時多発テロ事件で岐路に立たされている現在、とても重要な意味をもって迫ってきます。



## 母のキャラメル

(ベスト・エッセイ集'01年版) 文芸春秋

「小説は大嫌い、まして長編小説なんてとんでもない。」などという知人がいて、「あー、もったいないことを」と哀れんでいたのに、最近はずいぶん長いものをつい敬遠している自分に気づき始めています。長い読書は結構エネルギーが要ります。加齢とともに根気もなくなってきたのでしょうか。手軽で、字が大きくて、行間や文末に爽やかな(?)空間がたくさんあるという三大要素が私の読書に不可欠のものとなりました。

同じような悩みをお持ちの方々に、常々お奨めしているのがこのエッセイ集です。前年に発表されたあらゆるエッセイから選ばれた50篇あまりのベスト・エッセイが一冊の本に纏められています。20年ほど続いています。いろいろな分野の耳よりなお話もあり、創刊以来私の夏に欠かせない一冊です。01年版は人生の哀感をこめて母の愛を描いた表題作をはじめ、庭師の近藤正雄さんの「庭とことば」、や半藤末利子さんの「祖母夏目鏡子と父松岡譲の仲」などが特に興味深く読みました。

## 絵本の力

河合隼雄・松居直・柳田邦男共著 岩波書店

臨床心理学者、絵本づくりの第一人者、ノンフィクション作家の三人が絵本を子どもだけのための書物としてではなく、大人にも深い影響を与えうる新しいメディアとしてとらえ、その無限の可能性を追求して討論したものを纏めた本です。ITがどんなに発達しても絵本は21世紀においてもますます大切なものとなるだろうと予告しています。

若い頃の、特に幼少時の読書体験が美しい日本語の言葉の響きや力、リズムを育てていくという松居さんのお話はとても説得力があります。

奈良高専図書館にもたくさんではありませんが、児童文学のコーナーがありますので、たまには読んで見て下さい。きっとしみじみとした静かな感動を覚えることでしょう。

## 大和千年の路 (文春文庫)

榊莫山著 文芸春秋

ユニークな風貌と魅力的な作品で人気の猿山センセイの奈良県-紀行・案内記です。野の道標や鄙びた寺の扁額に、あるいはひっそりとたたずむ句碑などをみる時、書家としての鋭い観察眼が光ります。人生を豊かに楽しくする知恵と創意に満ちあふれた一冊です。若い頃から大好きだったという大和の今昔を、飾らない言葉で哀惜を込めて語っています。この夏の読書感想文コンクール課題参考図書となった一冊です。夏に読めなかった人は、この秋トライして下さい。

## 歴史教科書何が問題か 徹底検証Q&A

小森陽一・坂本義和・安丸良夫編 岩波書店

137ヶ所もの修正を経て、ついに検定を通った「新しい歴史教科書をつくる会」の中学用歴史教科書が中国、韓国から厳しい批判が出ているのはなぜなのでしょう。「歴史がなぜ進むのかがかかれていない。即ち根底欠如である。20世紀後半期の日本歴史学を無視している。民衆・女性・被差別民・子どもを歴史の裏に押し込めている。国家的英雄に関してだけ詳細な記述がなされている」(山崎朋子談)「基本が興国史観である」(三好 徹)「歴史を学ぶということは未来を構築することであり、それが無い歴史教育は無意味である。必要なのは歴史を構築する体系である」(橋本 治)「過去の戦争を聖戦ととらえている」(高木敏子)「沖縄戦における戦死者数、米軍の沖縄統治の実態など、事実誤認がある」(比屋根照夫)など問題点を徹底的に分析しています。問題の『新しい歴史教科書』や『ゴーマニズム宣言』と合わせ読んで一緒に考えてみましょう。



## 仕事人が人をつくる

(岩波新書750) 小関智弘著 岩波書店  
技術や技能を、どんな人が身につけて、どんなふうにもものを作るのかということに、強い関心を抱いてきた著者が、研削工、瓦職人、染色工、歯科技工士、大工の頭領、椅子作り職人、空師と呼ぶ高い木の剪定師など、人から人へ旅して、それぞ

れの職人が働きながらその仕事の奥行きを発見し、人となっていく過程を聞き書きエッセー風に描いています。ものづくりに励む人たちの日々の研鑽や誇り...、生きた学問とはこういうことなんだと納得させられます。著者自身も町工場で働くベテラン旋盤工です。

## 夢中・熱中・読書中～ 読書週間行事について

今年の読書週間行事として「21世紀のテクノロジー」をテーマとして関連の書籍を集めて展示しました。また名大大学院教授野依良治先生がノーベル化学賞を受賞されたことを記念して、ノーベル賞関係の書籍も同時に展示しました。展示書籍は次のとおりです。

### 「21世紀のテクノロジー」関連書籍リスト

図解アクチュエータ入門	松井重信	オーム社
Robolution人型二足歩行タイプが開くロボット産業革命		日経BP社
ロボット数式処理	川崎晴久	昭晃堂
ロボットにかける夢	有本 卓	岩波書店
ロボットに遊んでもらう本	博学こだわり倶楽部	河出書房新社
生体ナノマシンの分子設計	日本生物物理学会	共立出版
21世紀のキーテクノロジー	日経サイエンス社	日経サイエンス社
牛・人にやさしい搾乳ロボットの活用	高橋圭二	酪農総合研究所
産業用ロボット安全必携	構成労働省安全衛生部安全課	
超音波モータ入門	見城尚志	総合電子出版社
ブロードバンド革命	野村敦子	中央経済社
コンピュータ犯罪 驚愕の事件簿ファイル	中見敏男	青春出版社
ITバブルの内幕 光通信の天国と地獄	氏家和正	道 出版
「蟬の女王」	ブルース・スターリング	ハヤカワ
ニューロマンサー	ウィリアム・ギブスン	ハヤカワ
バイオ遺伝子ビジネス	岡三証券編	東洋経済新報社
バイオ産業革命 21世紀、生活と社会が激変する	瀬名秀明	学生社
ロボット21世紀		文春文庫
夢！ 21世紀の生命科学丸山工作(丸善ライブラリー334)		丸善
21世紀へ生命・細胞・遺伝子(Kブックス045)	佐藤哲治編著	工業調査会
21世紀への技術ノート	桜内雄二郎	工業調査会
総予測 21世紀の技術革新	牧野 昇	工業調査会
21世紀の科学を読む	サイエンス編集部	近代文芸社
科学は21世紀をつくれるかコスモス賢人会議 95	有馬朗人	春秋社
21世紀最新テクノロジー解体新書		日刊工業新聞社

## 「ノーベル賞」関連書籍リスト

ぼくもノーベル賞をとるぞ！！	高分子学会編著	朝日新聞社
ノーベル賞ゲーム 科学的発見の神話と実話	丸山工作著	岩波書店
あなたも狙え！ノーベル賞科学者99人の受賞物語	石田寅夫著	化学同人
親子でめざせ！ノーベル賞受賞者99人の成長物語	石田寅夫著	化学同人
POD化学と私	福井謙一著	化学同人
哲学の創造 - 21世紀の新しい人間を求めて	梅原猛 / 福井謙一著	PHP研究所
想像力の育て方・鍛え方	江崎玲於奈著	講談社
地球社会 生命と文化の視点 - 21世紀への対話 -		読売新聞社
精神と物質 分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか	立花隆 / 利根川進著	文芸春秋
私の歩んだ道 ノーベル化学賞の発想	白川英樹著	朝日新聞社
君たちに伝えたい言葉 - ノーベル賞受賞者と中学生の対話		読売新聞社
ノーベル賞の周辺 - 福井謙一博士と京都大学の自由な学風		
ノーベル賞科学者のアタマの中	米沢貞治郎・永田親義著	化学同人
ノーベル賞ゲーム 科学的発見の神話と実話	青野由利著	築地書館
ノーベル賞からみた遺伝子の分子生物学入門	丸山工作著	岩波書店
ノーベル賞への後ろめたい道 ジュラッシ・カール著	石田寅夫著	化学同人
ノーベル賞科学者 福井謙一 化学と私	中森道夫訳	講談社
大学院講義 有機化学1, 2	山邊時雄編	化学同人
	野依良治著	東京化学同人



### 編集後記

今号は、読書の秋に因み、“あなたの読書の秋のプラス1”と題して、いろいろな先生がたから多方面に亘っての一冊の本を推薦していただきました。

さて、あなたのプラス1は見つかったでしょうか。深まり行く秋の夜、ノーベル賞受賞の夢を見るのも悪くない…。

お忙しい中、原稿をお寄せ下さった先生方、学生みなさんに深く感謝します。(図書館委員会)

奈良工業高等専門学校図書館 〒639-1080 大和郡山市矢田町22 TEL 0743-55-6015

URL <http://library.nara-k.ac.jp/>